

農繁期 レポート

令和6年 9月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん



実りの秋を迎え無事に稲刈りが終わりました。今年の新米は穫れたてから味がしっかりとあり満足のいく出来となりました。収量は高温もあり例年より少々少なかったため、来年は味と収量を両立した栽培を心掛けて参ります。これから冬までに堆肥散布から秋の耕うんをして来年作に備えます。ありがとうございました。

9月の作業内容

1. 稲刈り

刈取適期は出穂後の積算温度だけでなく穂の色など状態をみて判断します。適期は非常に短く、その期間に雨が降るとコンバインが田んぼに入れず適期を逃すこともあります。そのため翌日が雨予報だと日没後もライトを照らし作業する農家さんもいます。

2. 脱穀後の粃

昔の手刈りとは違い現代はコンバインで刈り取り～脱穀迄行います。コンバインの容量がいっぱいになったら横づけした軽トラックに「粃」を一気に流し込み、すぐに乾燥機へ投入します。ここまでが一連の作業なので刈取後に放置は基本しないです。

3. 乾燥

収穫直後のお米は水分量が多いので乾燥機に入れ調整します。この工程で品質は良くも悪くもなり、稲刈りよりも気を使う作業です。急激に乾燥させると粒が割れてしまったりするのですが、現在の乾燥機は改良もされているためある程度機械任せで良い状態に仕上がります。

4. 等級検査

乾燥後にもみすり機に入れ、もみ殻を取り除き製品となる「玄米」に仕上げます。不良米や小石は色選機で除き、30kg袋に詰め込みしてから検査を受けます。また、もみ殻も堆肥作りにとでも大切な物として重要な副産物ですので捨てることはしません。

